

あけまして、おめでとうございます。この言葉と言えるのは、あと何回だろうと思ってしまうのは年齢のせいでしょうか？今回で最後かもしれないと思っている方もいらっしゃることでしょう。人生のはかなさを感じつつ、あらためてこの言葉をかみしめる時、めでたさは何倍にもなります。私は還暦を迎えました。同級生には、定年で第2の人生を送る方もいらっしゃいます。ところが、医師会というのは別世界で、なんと私はまだまだ若手なのです。小児科の新規開業医がほとんどなく、このままでは小児の時間外救急を担う小児科医が絶対的に不足してしまいます。大手町の急病診療所への出向回数が増え、当番医の回数もジリジリと増えています。少ない小児科医を有効に利用するために行政と医師会とで様々な方策が考えられて、現在着々と計画が進行中です。2次以上の救急を担う病院の先生方を疲弊させないために開業医もがんばらなければなりません。



### 【最近目立つ病気】

胃腸炎が目立ちます。ノロウイルス等のいわゆる「おなかの風邪」です。ノロウイルスは迅速検査ができますが、保険適応のある方は3才未満と65才以上の方です。そしてノロウイルスと診断されても特別な治療法はありませんし、何のメリットもありません。症状はピンからキリまで、個人差が大きい疾患です。ノロウイルスだけが、悪者にされていますが診断できないウイルス性胃腸炎は他にも数種類あります。いずれも、突然に発症しますが、初日を我慢すれば自然と快方に向かいます。ただし、ノロウイルスは高齢者で重篤化しやすく、春先〜初夏に流行するロタウイルスは乳幼児で重症化します。幸いロタウイルスについては有効なワクチンのお蔭で重症化する児は本当に少なくなりました。

おたふくかぜと溶連菌感染症が流行中です。水痘も局地的な流行があります。RSウイルス感染症は例年になく多いようです。マイコプラズマ感染症もみられます。アデノウイルス感染症も時々あります。この時期は様々な感染症がみられます。そして、おそらく例年どおり1月中旬からインフルエンザが流行期に入ると思われます。

### 【ノロウイルスの遺伝子変異】

高齢者や乳幼児を中心に激しいおう吐や下痢を引き起こすノロウイルスが変異し、ヒトが免疫を持たない新たなウイルスとなって、ことし初めから国内で感染を広げていたことが分かりました。

激しいおう吐や下痢を引き起こすノロウイルスには、ヒトに感染する遺伝子の型が3種類ありますが、遺伝子型の判別が可能になった平成16年以降、国内でも海外でも「GⅡ・4」という型が流行の主流を占めてきました。

ところが、一昨年10月からの半年間、国内の患者から検出されたウイルス2000株以上を調べたところ、昨年に入って、「GⅡ・17」という型が急激に増え、昨年2月以降は、すべてこの型になっていました。

さらにこの「GⅡ・17」の遺伝子を詳しく解析したところ、ヒトへの

感染のしやすさに関わる部分が変異し、ヒトが免疫を持っていない新たなウイルスになっていたということです。

ウイルスは、変異によって新たなタイプが出てくると、ヒトがそれまでに獲得した免疫が役に立たなくなるため、感染する人が増え大きな流行になるおそれがあります。

国立感染症研究所は、昨年の秋以降、新たな「GⅡ・17」型が流行の主流を占めた場合、平成18年の時のような大流行になるおそれがあるとして、ウイルスの検出を行う全国の地方衛生研究所に遺伝子の分析を徹底し、注意喚起につなげるよう求めました。

ノロウイルスは、アルコールによる消毒では十分な効果がないため、患者のおう吐や便を処理する時には、マスクや手袋をして次亜塩素酸ナトリウムを含む市販の漂白剤などを使って消毒する必要があります。

また、症状が出ない人もいるため、飲食店などで食中毒を防ぐには、調理や配膳の際に流水と石けんによる手洗いを徹底したり使い捨ての手袋を使ったりすることなどが重要です。

(NHK「かぶん」ブログより)

### 【アタマジラミの最新事情】

スミスリンシャンプーに耐性のあるシラミが増えており、これまでよりも、専用の梳き櫛による退治が重要視されています。

【一般的な流れ】「シラミを発見したら」

①頭髮の虫がアタマジラミかどうか確認する。

②シラミ専用梳き櫛を通販で注文(店頭に並んでいないことが多い)。

③スミスリンを薬局、ドラッグストアなどで購入

発見初日に成虫と幼虫を退治する(スミスリンシャンプーを使う)。

④梳き櫛の到着、すべてのシラミと卵を取り除いて駆除完了!

再発がないかときおりチェックする。当院には最新事情を報告しているホームページのコピーがあります。看護師にお尋ねください。アタマジラミの駆除は保険診療ではできません。

### 【化血研の問題】

製薬メーカーの化血研が長年にわ

たって国の承認とは異なる方法で血液製剤やワクチンを製造していた問題で、厚生労働省が化血研への業務停止命令の期間を過去最長の110日間とする方針を固めたことがわかりました。

この問題は、熊本市にある化血研が、40年前から国の承認とは異なる方法で血液製剤を製造し、さらに隠蔽するため、虚偽の製造記録を作成していたものです。

厚生労働省は、化血研に対し、医薬品医療機器法に基づき業務停止命令を出す方針ですが、業務停止の期間について、過去最長の110日間とする方針を固めたことが関係者への取材でわかりました。製薬企業への業務停止命令でこれまで最も長かったのは、抗がん剤との併用で死者が相次いだ抗ウイルス剤「ソリブジン」の問題で、1994年に当時の日本商事が受けた105日間です。

厚生労働省は化血研が長期間にわたり組織的な隠蔽を行うなど制度の根幹を揺るがす悪質な行為だとして、過去最長の停止処分とすることが適当と判断しました。(TBS News)



☆大手町の夜間急病診療所(Tel.222-0099)では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は1/1、1/21、2/21、3/6、3/31の予定です。なお、2/11は当番医です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン(おたふくかぜ・インフルエンザ)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

